

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

第9回中央区ブーケ祭りに出展

- テーマ「共に輝き、未来につなげ」 -

### [随想](#)

オックスフォード便り（その7）

関東学院大学 織 朱實

### [編集後記](#)

## トピックス

### 第9回中央区ブーケ祭りに出展

- テーマ「共に輝き、未来につなげ」 -

6月25日、26日の2日にわたって、当協会のある中央区で開催された「中央区ブーケ祭り」に参加しました。このお祭りは今年で9回目になり、職場、地域、家庭で働く女性たちへの応援を目的に開催され、体験型環境学習を提供しています。地域社会に貢献する団体や、自分の趣味や学習を楽しむグループが33団体集い、中央区の女性センター「ブーケ21」で開催されました。今年のテーマは「共に輝き、未来につなげ」で、“熱中の花束”に、子育て、仕事・勉強、介護、恋愛・健康、家事、ボランティア・地域活動の花を咲かせる取り組みが紹介されていました。

日頃から活動に共鳴してお付き合い頂いている「中央区環境保全ネットワーク」のお誘いで、3階の研修室にあるブースの一角に出展させて頂きました。体験型の遊びとして、塩ビ雑貨製品の手作り「けしごむをつくろう！」を企画しました。また、生活に役立つリサイクル品として「フラクタル日除け」の実物を展示しました。「けしごむをつくろう！」は(株)クツワが販売している製品で、あらかじめ着色配合された4種の消しゴムの原料とプラスチックの金型を使って、色々な消しゴムを作るものです。お寿司、ドーナツ、ケーキ、アイスなど8種類の製品を80個準備しました。

初日は、大人の方がほとんどで、出展されている団体関係者や、矢田区長様はじめ行政の方も来られました。「フラクタル日除け」に興味を示す方が多く、



1F会場



熱中の花束



「フラクタル日除け」を説明

「これ何に使うものか分かりますか？」と質問すると、漁礁、靴入れ、オブジェ、生け花差し等の答えが返って来ました。数人の方が「日除けでしょ！テレビで見たよ」と話しかけて来られ、地元のメディアからも取材を受け、先ず先ずの初日でした。



消しゴム作りに熱中

2日目は土曜日のためか、子どもたちが主役です。消しゴム作りで、ブースの机はすぐに満席になりました。事前に協会で試作したところ細かい作業で意外と難しく、小さな子どもには無理かと思っておりましたが、小学校低学年でも器用に作る子どもも居たり、一緒に来られた大人が夢中で作られたり、楽しく賑やかに色トリドリの作品が出来上がり、瞬く間に品切れの盛況に終わりました。消しゴムとしても立派な機能を持っていますが、「ブーケ21」にも名前入りの作品を寄贈し喜ばれました。

今後も、このような元気な地域活動が広がり、次代のために残せる、安心、安全、快適な街作りに少しでも貢献出来ればと思っています。この機会を作って頂いた、「ブーケ祭り実行委員会」と「中央区環境保全ネットワーク」の皆さまに感謝しています。(了)

## 随想

### オックスフォード便り(その7)

関東学院大学 織 朱實

オックスフォードの中で、一番オックスフォードらしい行事が6月23日にありました。エンシーニア(Encaenia 再生の祝典を意味するギリシャ語だそうです)と呼ばれるもので、この日はオックスフォードの街はいつも以上に、まさに学問の都！という雰囲気漂います。いつもは、学生だけが学生らしい服装をしているのですが、この日は全国から集まった学位取得者がそれぞれのカレッジのキャップとガウンをつけて、街を闊歩しているので、若者からお年寄りまで様々なガウン姿が見られるのです。

エンシーニアは、一言でいえば「功労者の学位授与式」。日本の大学でも、もと大統領や功績のあった方に「名誉博士号」を授与するということがありますが、オックスフォードではこれが1760年から変わることのない伝統的な儀式にのっとり行われるのです。式典が行われるのは、英国の大建築家クリストファー・レン(ロンドンのセントポール寺院などが代表作)の一番最初の作品であるシェラドニア・シアター。参加するには、事前にチケット(無料。ただし身分証明が必要)が必要になります。学位取得者はその学位にあったガウンを必ず着用することとなり、私もガウンをきて参列しました。ということで、小さな街に老若男女のガウン・キャップ姿があふれるのです。



学位を授与される候補者は赤いガウンにキャップをつけて、オックスフォードの街を行列しシェラドニア・シアターに入ります。この行列が名物なのですが、ここ数年は化学ラボの動物実験反対の動物愛護団体の妨害をおそれ短くなっているそうです。金の淵飾りのついた長い黒マントの総長（マントをもつ中世の御小姓のような少年もちゃんといいます）銀の杓をもつ紫ベルベット軍団、赤いガウンの候補者がゆったりと進んでいく様はまさに中世そのもの。



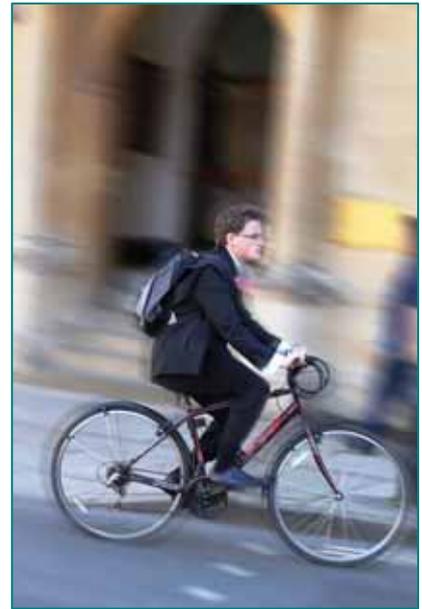
ファンファーレが鳴り響く中、入場する一行を、全員起立でお迎え。英国国歌斉唱、パイプオルガン演奏後、授与者の功績がラテン語で紹介され、学位が授与されます。その後、パブリック・オレイター（代表演説者）がこの1年間に大学に寄付をした個人・団体、亡くなった方の名前を挙げ、最後にオックスフォードの一年間の出来事をユーモアを交えて、英語で紹介（ここまでは、すべてラテン語。英文リーフレットが配布されますが）。英語での紹介には会場は大爆笑。少し皮肉めいたユーモアをいれた演説、会話が、オックスフォードでは何より重要なことをここでも実感します。さすがシェークスピアのお国、と思うのはこういうときでも棒読みでなく、表情豊かにドラマのように語られている点です。英国紳士は、表情が堅いというイメージですが、演説での声の抑揚、感情表現の豊かさには驚かされます。小学校でも、普通に「ドラマ」の授業があるので英国において「ドラマ」は基礎教養のようになっているのですね。

授与式の後には、副総長主催のガーデニングパーティ。今年はモードリアンカレッジ（皇太子さまが留学なさっていたカレッジです）で開催されました。シャンペン、スコーン、サンドイッチ、カナッペなどが白テントでサーブされ、管弦楽が演奏されるなど、優雅な雰囲気。

エンシーニア以外にも6月のこの時期は、試験シーズンでもあるので、オックスフォードとケンブリッジのみに残っている「正装（Sub-Fuc）」男性はキャップ、ガウンに白シャツに白ボウタイ、女性はキャップ、ガウンに白ブラウスに黒リボン、黒スカート・パンツ姿の学生もあちらこちらで見かけます。胸にカーネーションをつけていますが、白は初年度、ピンクは2年度、赤は最終学年を表しています（カーネーションはカレッジの聖堂に用意されています）。ちなみに、正装コードは教授にもかかっていて、先生も正装でないと試験会場である Examination School にいれてもらえませんし、正装でない先生のテストは学生はキャンセルできるので、先生も服装にもれがないか神経を使うそうです。



この時期は、黒マントを翻し、試験会場に急いでいる学生や先生！の姿も良く見られます。英国では、このような古式豊かな衣装を真面目に着て行う行事が多いです（裁判官のかつらしかり）。みなさん大真面目なのですが、慣れていない日本人にとっては、コスプレのようで少し恥ずかしいです。でも、伝統的な衣装で、様式にのっとることが「時代遅れ」でなく生活に根付いている感覚は、日本がなくして久しいものなので（だからこそ恥ずかしく感じてしまうのだと思います）今でもきっちり残っている英国が羨ましい気もします。ということで、ささやかに「着物を普段でも着よう」活動をしている私です。次回はまた初夏の様子をお知らせできればと思います。



オックスフォードの様子の写真もっと見たい方は、私のブログもよろしければ見てください。

<http://akemiori.blog67.fc2.com/>

(つづく)

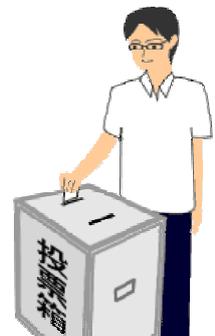
前回の「オックスフォード便り(その6) - オックスフォードに春がやってきた! -」は、下記からご覧頂けます。

[http://www.vec.gr.jp/mag/271/mag\\_271.pdf](http://www.vec.gr.jp/mag/271/mag_271.pdf)

## 編集後記

長い間、新聞、テレビなどを賑わしてきたサッカー・ワールドカップも決勝戦を残すのみとなりました。日本の活躍で、今までJリーグにあまり関心の無かった方を含めおおいに盛り上がり、政治や選挙、他のスポーツなどの話題は陰が薄くなっていたように感じました。この日曜日には、参議院選挙が有り、その動向が今後の日本の政治に大きな影響を与えます。もし、サムライジャパンが最後まで勝ち残っていたら、選挙に影響は・・・。

つまらないことを考えず、まずは、皆様、投票に行きましょう。(可)



## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)、 [メールマガジン登録](#)、 [メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)